

◆修道地区で『安田女子大学』のお手伝いによる『とんど』が盛り上がり、終了しました!!

安田女子大学と当協会が協定を締結し、町内各地域で実施している『困り事解決プログラム』(町内各地に存在する『困り事』解決の手伝いを介して地域住民との交流や超高齢化社会の実態を学ぶ安田女子大学の授業)が今年も修道地区で小正月行事『とんど』のお手伝いを行いました。

本プログラムは、地域の方々の『想い』を出来るだけ汲み取ってプログラムに反映させることをテーマにしているため、竹切りや運びだし、枝落とし、組み立て、食事の準備はもちろんのこと、地域の希望である点火式やレクレーション交流会を学生が考え、地域の方々と共に1日を楽しく過ごしました。

後日頂戴した学生の感想文から一部引用させていただきます。

私が今回参加して最も印象に残っていることは、『とにかく楽しかった』ということと『安芸太田町の方々はとても温かい方ばかりだった』ということです。私はとんどを見るのも手伝うのも初めてだったのですが、たくさんの貴重な体験をさせていただきました。(中略)

とんどの組み立てでは地域の方々のチームワークの良さ、仲の良さをとても感じました。誰かが指示をするわけではなく、全員が各自の役割をしっかりと行って、ハプニングが起これば、すぐに対応するという連携プレーが本当に素晴らしかったです。また、終始楽しい会話が飛び交い、お手伝いしていても楽しかったです。

お昼頃になるとだいぶ地域の方々と沢山お話が出来るようになり、本当に楽しい時間を過ごすことが出来ました。(中略)

安芸太田町はとても空気がきれいで、夏になると虫が飛び、秋になると紅葉がとてもきれいだとおっしゃっていましたので、今度は是非見に来たいです。

私たちのバスが見えなくなるまで手を振って下さった心温かな安芸太田町の方々との交流することができ、今回のプログラムに参加して本当によかったと思いました。



住民・大学生が一丸となって竹切り出し中



大学生が主体となって住民と共にレク交流中

◆松原地区で今年もたくさんの方々が『雪かき』にお越しくださり、良い交流となりました!! ※初めて、全国ニュースで紹介されました。



日本最南端の豪雪地帯に位置する当町でも特に雪深い『松原地区』で、高齢者宅の『雪かき』を通じた心温まる交流が繰り広げられ、住民・参加者双方が感動を共有する光景が何度も見られました。

40名以上の参加者の中には広島県民だけではなく、海外や県外の方もいらっしゃいました。最年少は福岡在住で17歳の高校生から、毎年参加くださる75歳まで多士^{たしさいさい}済々のメンバーです。

何と言っても今回特筆すべきは、雪かきをする側に安田女子大学生が参加し、参加者を受け入れる自治会サポートとして修道大学生が参加したことです。高齢化が急速に進む各地域で、参考にすべき事例だと私どもは思います。

地域住民が喜び、町外の応援者が喜び、精神的・物理的に地域が少しでも良い方向に向かっていくことが私どもの『目的』の全てであるため、地域や参加者の声を踏まえてさまざまなやり方を柔軟に取り入れながら息の長い活動を行ってまいります。